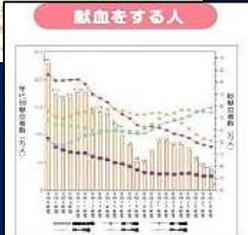


献血に関する指導の充実



少子高齢化が進み、輸血用血液製剤の需要が高まる一方で、献血が可能な若年層の人口減少など、より幅広い年齢層による献血の協力体制が必要とされています。



そのため、将来の献血を支える高校生等の若年層に対して、献血の意義や制度などについて理解を深めることが求められています。

保健体育科の授業において、「けんけつ HOP STEP JUMP」を活用した授業実践事例を紹介します。

献血について

知る

考える

発信する



保健体育の授業で活用しよう 「けんけつ HOP STEP JUMP」



高等学校学習指導要領解説保健体育編では、「保健」で取り扱う内容のうち、次のことが示されており、各高等学校には、献血制度などに関わる指導の充実が求められています。

- ・「我が国の保健・医療制度」に係る学習において、「献血の制度があることについても適宜触れるようにすること」
- ・「様々な保健活動や対策」に係る学習において、「日本赤十字社などの民間の機関の諸活動や、その活動等を充実するためには、一人一人が生涯の各段階でそれらを理解し支えることが重要であり、そのことが人々の健康につながることに触れるようにすること」

「けんけつ HOP STEP JUMP」の内容

- 【内容】
- 必要不可欠な献血
 - 高校生のみなさんへのご願い
 - 献血の基礎知識
 - 献血の手順
 - 患者さんに血液が届くまで
 - 献血Q&A
 - ミニコラム
 - 献血を受けた方々・血漿分画製剤を使用した方々の声 など



※献血に関する正しい知識の普及のため、厚生労働省は高等学校に「けんけつ HOP STEP JUMP」を配布しています。これは、次年度の第3学年生徒配付用として国から学校へ直接送られます。

献血に関する授業実践例

HOP 献血の意義や現状の理解を深める取組

A校では、献血の意義や現状など、基本的な内容の理解を深めるため、「けんけつ HOP STEP JUMP」を活用して説明を行いました。

授業者は、本資料の内容を全て扱うのではなく、事前アンケートの結果から指導内容の焦点化を図り、必要な内容を取り上げて説明に活用しました。



STEP 献血の課題に向き合い、解決策を考える取組

B校では、献血の現状や課題等について学習した後、個人やグループで課題を解決するためにどのような取組を行えばよいかを考えたり、協議したりする活動を行いました。

【授業実践校における協議テーマ】

若者の献血者数を増やす取組、献血事業を広く知ってもらうための方法 など



JUMP 学び、考えたことを発信する生徒の自発的な取組

C校では、「けんけつ HOP STEP JUMP」を活用したスライドによる説明や日本赤十字社の動画の視聴により、献血についての基礎的な内容を学習した後、「緊急手術に必要な120人分の血液をどのように集めるか」をテーマに協議する活動を行いました。

授業後には、放送局が、献血をテーマにした短編ドキュメンタリーを作成する活動を行いました。

